

VDR 消費者情報



特集：オリンピック 意識調査

平成28年8月1日発行（第30号）

発行者：坂上真介 編集長：土屋百合香
東京都品川区西五反田8-3-16

西五反田8丁目ビル4F

株式会社市場開発研究所

連絡先：Tel：03-5436-6222
Fax：03-5436-6232

調査の概要

- 調査方法：インターネット調査
- 調査期間：2016年7月15日～18日
- 調査対象：M.netインターネット調査モニター
20～69才の男女
- 調査数：300

調査の背景と目的

- ◆ リオ五輪が間近に迫り、メディアではリオ五輪に関する情報が頻繁に取り上げられています。
その中で、リオ五輪にどの程度興味を持ち、どのようなところに期待しているのでしょうか。
また、2020年に控えている東京五輪と比較して、違いはあるのでしょうか。
本調査では、男女、年代の違いに焦点を当て、考察していきます。

調査設計数

	20代	30代	40代	50代	60代	計
男性	30	30	30	30	30	150
女性	30	30	30	30	30	150

(人)

●リオ五輪 競技認知

選手の活躍が、五輪の競技認知度に直結！ 過去の成績が、五輪の競技認知に影響を与える

■ リオ五輪 競技認知

*認知度で降順ソート

■ 上位3項目に網かけ

	全体 n=300	過去メダル 獲得数	ロンドン五輪メ ダル獲得数
柔道	69.3	72	7
陸上	69.0	23	1
水泳	68.7	85	11
体操	67.7	95	3
卓球	60.0	1	1
レスリング	59.3	62	6
バレーボール	58.7	9	1
バドミントン	57.0	1	1
テニス	54.7	2	0
サッカー	54.7	2	1
フェンシング	54.3	2	1
ウエイトリフティング	51.3	13	1
アーチェリー	48.3	5	2
バスケットボール	46.0	0	0

(%) (個) (個)

	全体 n=300	過去メダル 獲得数	ロンドン五輪メ ダル獲得数
ボクシング	43.3	5	2
ゴルフ	42.0	0	0
射撃	41.3	6	0
トライアスロン	39.7	0	0
馬術	39.3	1	0
ハンドボール	34.3	0	0
自転車	34.0	4	0
7人制ラグビー	33.7	0	0
テコンドー	30.7	1	0
ヨット（セーリング）	30.7	2	0
近代五種目	30.0	0	0
カヌー	28.3	0	0
ホッケー	28.0	1	0
ボート	27.7	0	0
特になし	22.3		

(%) (個) (個)

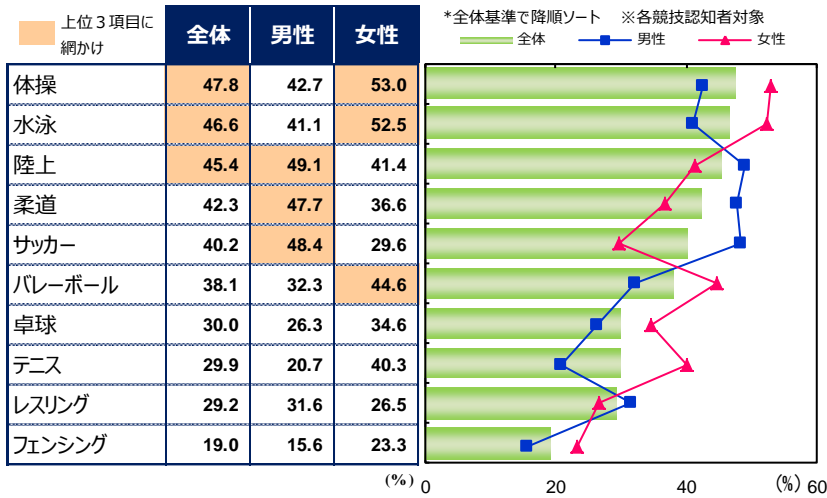
- ◆ リオ五輪で行われると認知されている競技は、「柔道」「陸上」「水泳」「体操」が上位となります。
- ◆ 過去の五輪で、日本人選手が多く出場・活躍し、今大会もメダル獲得が期待されている競技ほど、メディアから大きく取り上げられ、五輪競技であると認知されていると言えるでしょう。
- ◆ そのため、「テニス」「サッカー」「バスケットボール」「ゴルフ」等、競技自体の認知は高いものであっても、日本人の過去の五輪での活躍がみられない競技は、リオ五輪の競技としての認知度は低いことが窺えます。

●リオ五輪 競技への興味・観戦意向

女性は五輪観戦に対してミューサー？ 過去の成績も影響？ メディアへの露出が、観戦意向を高める

■ リオ五輪 競技別興味・関心（上位10項目）

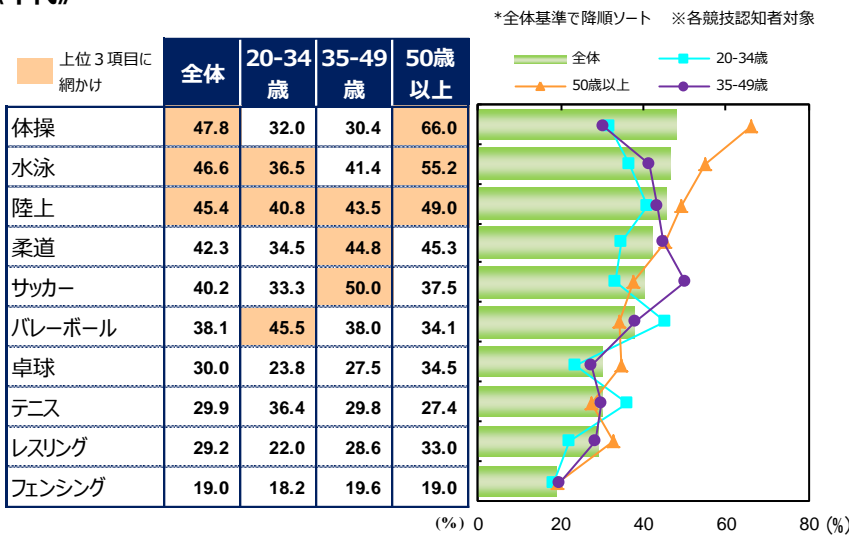
《性別》



	全体	男性	女性
体操	203	103	100
水泳	206	107	99
陸上	207	108	99
柔道	208	107	101
サッカー	164	93	71
バレーボール	176	93	83
卓球	180	99	81
テニス	164	87	77
レスリング	178	95	83
フェンシング	163	90	73

- ◆ リオ五輪で興味・関心のある競技は「体操」「水泳」「陸上」「柔道」「サッカー」「バレーボール」が上位を占めます。
- ◆ 性別でみると、女性は「テニス」への興味・関心が男性に比べ高いです。（5%水準で有意）一方男性は、「サッカー」への興味・関心が女性に比べ、5%水準で有意に高くなります。
- ◆ また女性は、「体操」「水泳」を五輪競技と認知している半数以上が、「体操」「水泳」に興味・関心を持っていて、人気テレビ番組への出演や、女性ファッション誌等で特集されるような、メディアへの露出が多い競技に対して、観戦意向が高い傾向がみられます。

《年代》



	全体	20-34歳	35-49歳	50歳以上
体操	203	50	56	97
水泳	206	52	58	96
陸上	207	49	62	96
柔道	208	55	58	95
サッカー	164	42	50	72
バレーボール	176	44	50	82
卓球	180	42	51	87
テニス	164	33	47	84
レスリング	178	41	49	88
フェンシング	163	33	46	84

- ◆ 年代別でみると、50歳以上は、「体操」への興味・関心が強いです。これは、日本人選手が、体操の男子団体5連覇を達成（1960年ローマ五輪、1964年東京五輪、1968年メキシコ五輪、1972年ミュンヘン五輪、1976年モントリオール五輪）し、『体操王国』として、各種メディアに大きく取り上げていた頃をリアルタイムで見ていたからだと推察されます。
- ◆ 35-49歳は「サッカー」への興味・関心が高い。漫画『キャプテン翼』の流行（1980年代）、Jリーグ発足（1993年）等の影響で、サッカーにもともと興味・関心の高い層が多いためだといえます。
- ◆ 「バレーボール」は、日本で五輪予選が行われ、それをTV放送すること、そこに芸能人が出演していることが、若年層の女性が競技をテレビで観戦し、五輪の競技として、興味・関心をもつ一端を担っているため、20-34歳の興味・関心が高くなるということが出来ます。

●リオ五輪 競技への興味理由

リオ五輪の競技に期待するのは、「日本人選手の活躍」？「試合内容」？

■ リオ五輪 競技別 興味・関心理由（全体）

※各競技「興味・関心がある」回答者対象

* n数が30以上の競技について記載

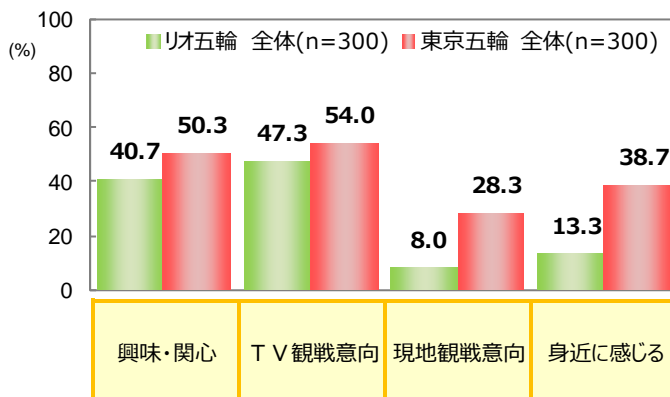
競技	n	上位3項目に網かけ										
		日本人選手が活躍しそう（メダル獲得が期待できそう）だから	試合展開が面白いから	応援している（好きな）選手がいるから	自分がやっている（いた）スポーツだから	もともと自分が好きなスポーツだから	家族や友人・知人が好きなスポーツだから	家族や友人・知人がやっている（いた）スポーツだから	自分の技術の参考にするから	迫力のある・レベルの高いプレーを見ることができから	その他	特になし
体操	97	84.5	19.6	23.7	3.1	10.3	1.0	4.1	-	15.5	-	2.1
水泳	96	77.1	22.9	15.6	7.3	14.6	1.0	2.1	1.0	18.8	-	2.1
陸上	94	51.1	30.9	16.0	4.3	11.7	2.1	2.1	-	18.1	-	3.2
柔道	88	87.5	19.3	8.0	8.0	8.0	2.3	2.3	-	11.4	-	1.1
サッカー	66	45.5	40.9	22.7	12.1	28.8	6.1	-	3.0	12.1	-	1.5
バレーボール	67	52.2	37.3	23.9	7.5	22.4	4.5	3.0	-	14.9	-	6.0
卓球	54	77.8	20.4	25.9	16.7	16.7	-	-	-	14.8	-	1.9
テニス	49	65.3	18.4	34.7	10.2	28.6	8.2	2.0	-	12.2	-	2.0
レスリング	52	82.7	15.4	17.3	-	3.8	1.9	-	-	13.5	-	1.9
フェンシング	31	67.7	19.4	12.9	3.2	9.7	-	-	-	6.5	3.2	3.2
バドミントン	30	73.3	16.7	23.3	-	10.0	6.7	3.3	-	10.0	-	3.3

- ◆ 競技別興味・関心理由は、いずれの競技も「日本人選手が活躍しそう（メダル獲得が期待できそう）だから」がトップとなるものの、サッカーや陸上、バレーボールは半数前後に留まります。
- ◆ サッカーやバレーボールは「試合展開が面白いから」、テニスは「応援している（好きな）選手がいるから」が高く、五輪だから興味があるのではなく、競技自体に対して、興味・関心度の高いことが窺えます。
- ◆ 4年に1度の五輪という特別な舞台で行われ、日本人選手の活躍・メダルが期待されるからこそ興味・関心がある競技と、もともと自分が好きで、五輪で行われなくても、日本人選手が期待されていなくとも、興味・関心のある競技があるといえるでしょう。

●東京五輪への意識

リオ五輪に対して、あまり興味・関心がない人も、2020年の東京五輪は興味がある？

■ リオ五輪・東京五輪 比較



5段階で聴取し、いずれもTOP2BOXの値となる。

* 興味・関心 = 興味がある + やや興味がある

TV観戦意向 = 観戦したい + やや観戦したい

現地観戦意向 = 観戦したい + やや観戦したい

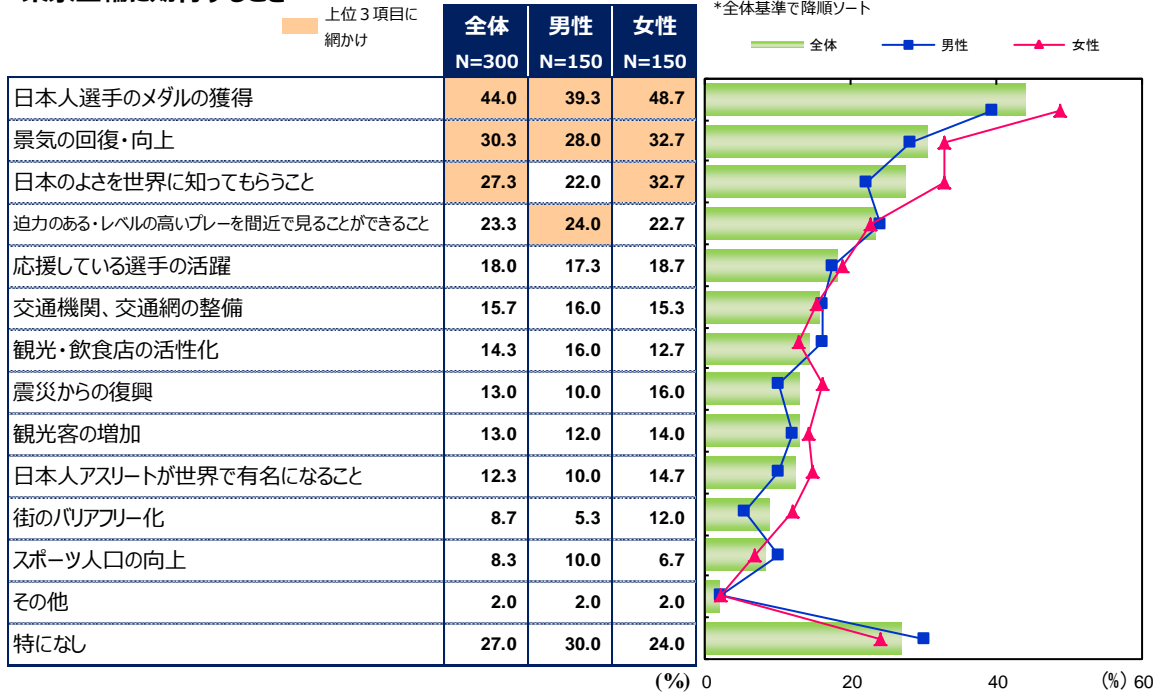
身近に感じる = 身近に感じる + やや身近に感じる

- ◆ 「興味・関心度」「TV観戦意向」「現地観戦意向」「身近に感じるか」をそれぞれ、リオ五輪と東京五輪に対して聞いたところ、いずれの項目も、リオ五輪に比べ、東京五輪が高くなります。
- ◆ 特に、東京五輪への「興味・関心度」、「TV観戦意向」は5割を超え、直近にあるリオ五輪よりも高いです。東京五輪は2020年と、まだまだ先のため、これからますます東京五輪に対する『興味・関心』や『期待』が高まることが予想されます。

東京五輪へ期待すること

東京五輪は、世界に対して、日本をアピールする機会？

東京五輪に期待すること



- 東京五輪に期待することは、「日本人選手のメダルの獲得」がトップになります。
- 女性は男性に比べ、「日本のよさを世界に知ってもらうこと」「街のバリアフリー化」のスコアが高く、5%水準で有意となりました。
- 女性は、東京五輪を、『スポーツの祭典』として捉えるだけでなく、『日本がもっと住みやすい国になる機会』『日本を世界にアピールする機会』だと期待する傾向がみられます。

まとめ

今回の結果から、五輪競技の認知、競技への興味・関心は、五輪の競技として、メディアでの取り上げられ方が、大きく関与しているといえます。

過去に5連覇を成し遂げた「体操」や、五輪では毎回メダルを取っている「柔道」「水泳」「陸上」は五輪期間中に大きくメディアに取り上げられるため、認知、興味・関心が高いです。また、個人競技は団体競技に比べ、メダルの獲得数が多く、個人ごとに報道されるため、団体競技に比べ、五輪の競技として認知されている傾向がみられます。

また、女性・若年層は「バレーボール」「水泳」への興味・関心が高いです。これは普段からメディアに取り上げられ、女性・若年層の目によく止まっているからだと推察することができます。

「バレーボール」は、五輪最終予選をTVで生中継すること、そこに芸能人を呼ぶことで、バレーボールへ興味がない人にも観戦するきっかけをつくりました。また、男子代表の柳田、高橋、山内、石川の若手イケメン選手を「NEXT4」として売り出すことで、「応援したい選手・好きな選手」が見つかり、興味・関心をさらに高めることに繋がったのではないのでしょうか。「水泳」は、『テラスハウス』（保田）や『モシモノふたり』（立石）といった人気番組への出演、『ViVi』（入江）などの女性ファッション冊子での特集が、女性や若年層の注目を集めるきっかけになりました。

競技に興味・関心を持ってもらうためには、その競技での活躍はもちろんですが、「バレーボール」「水泳」のように、メディアを通じて様々な情報を流すことが、「知ってもらう」「興味を持ってもらう」きっかけになるのではないのでしょうか。

(営業企画1部/土屋 百合香 tsuchiya@mdr-j.co.jp)

ご希望の方には、今回調査した全てのデータをお渡します。お気軽に営業担当までお問い合わせください。